

Instituto Tecnológico de Asano

**Curso industrial universitario de formación especializada
Departamento de Ingeniería Arquitectónica**

TESIS

Nuevo diseño de espacio comercial -tienda de contenedores-

PARA OBTENER EL TÍTULO DE

Diploma Avanzado
(TÍTULO DE ARQUITECTO)

AUTOR

BERROCAL HUAMANI LUIGGUI CHIRSTHIAN MARIO

ASESOR

TOORU KIKUCHI

LINEA DE INVESTIAGACIÓN

El sitio limitado que no parece estar en el centro de la ciudad En otras palabras, el diseño en la brecha Va a ser importante.

¿Es posible construir un espacio comercial insertando módulos en los huecos? busqué a tientas.

Este módulo se puede insertar y quitar para configuración libre y Permite la transformación.

El futuro espacio comercial será compacto y al mismo tiempo amplio y libre. Creo que habrá una demanda de diseños que permitan el diseño de espacios comerciales.

KANAGAWA,JAPON,ABRIL 2018~MARZO 2019

平成 30 年度卒業設計

新しい小空間設計 - コンテナショップ -



Berrocal Mario (ベロカル マリオ)

1996 (平成08年)、神奈川県生まれ。

浅野工学専門学校卒業 (平成30年度3月見込み)

私は、人の笑顔をつくるためにはどのような設計が求められるか。常に意識するようになってきた。

そんなテーマが「人の人生に笑顔をつくる建築を」である。

建築工学科は4年間の学業である。

その中でも、一番印象に残っている年は3年生である。

自治会長の傍ら、条件の多い設計課題に何度も徹夜した。

今思えば楽しかったが、当時の私は寝不足でつらかった。

建築は好きだが、疲れを感じないわけではないからだ。

そして、4年生の集大成となる卒業設計には、骨が折れる思いをした。

現環境の敷地面積の現状に着目した**建築環境問題**に向き合っている。

参考にはなるかは分からないがヒントになればいいと思う。

初めのコンセプトから180度変わった際には徹夜が必須だった。

それでも、やり遂げたのには「人に笑顔をつくりたい」という思いからだろう。

私も建築初心者ではあるが、なにが言いたいかというところ。

建築を始めるには、自分なりの全てに通ずるテーマを掲げるのが大事であることを言いたい。

それと、関係はないのだが。就活生が読んでるのであれば卒業設計に集中しすぎないことを注意したい。焦って早く決めろとは言わないが、バランスよく取り組んでほしいと思う。私の場合は卒業設計に集中してしまい (就活中に訳が分からずに逃げた) 内定をもらうのに遅くなってしまった。

そんな、出来そうでどこか抜けている**男の集大成**を最後まで見ていってくれれば嬉しい。



－ これからの商空間設計 －

1-2. 商業施設テナ全体像

3-4. 敷地情報

5-6. 狭小地で自由な商空間設計をするには

7. キューブモジュール（構築）

8. キューブモジュール（縦動線）

9-10. 商業施設を構築・問題定義

11. コンテナモジュールへの転換

12. コンテナ商空間

13. 構成検討プラン1

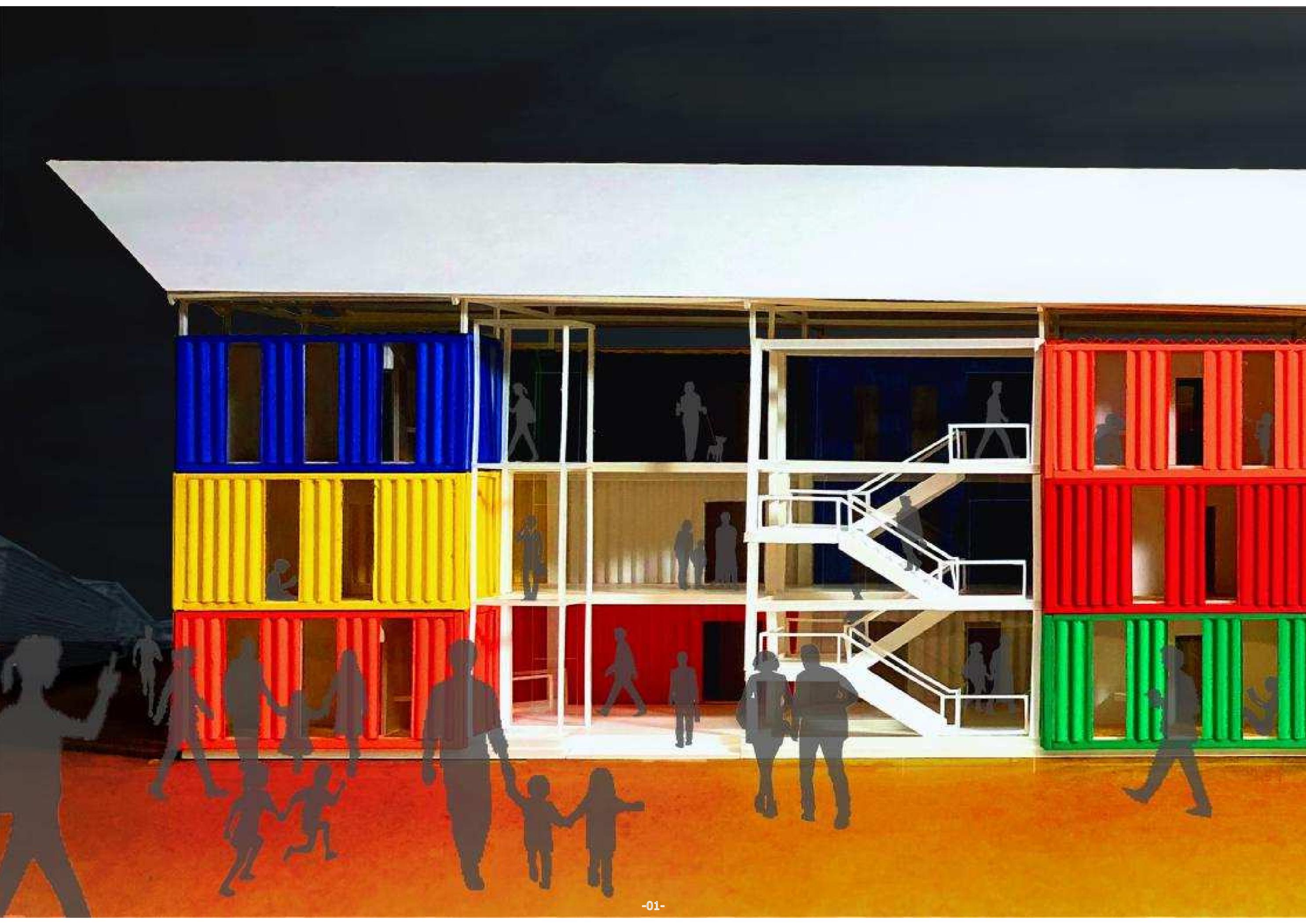
14. 構成検討プラン2

15. 太陽光の取り込み

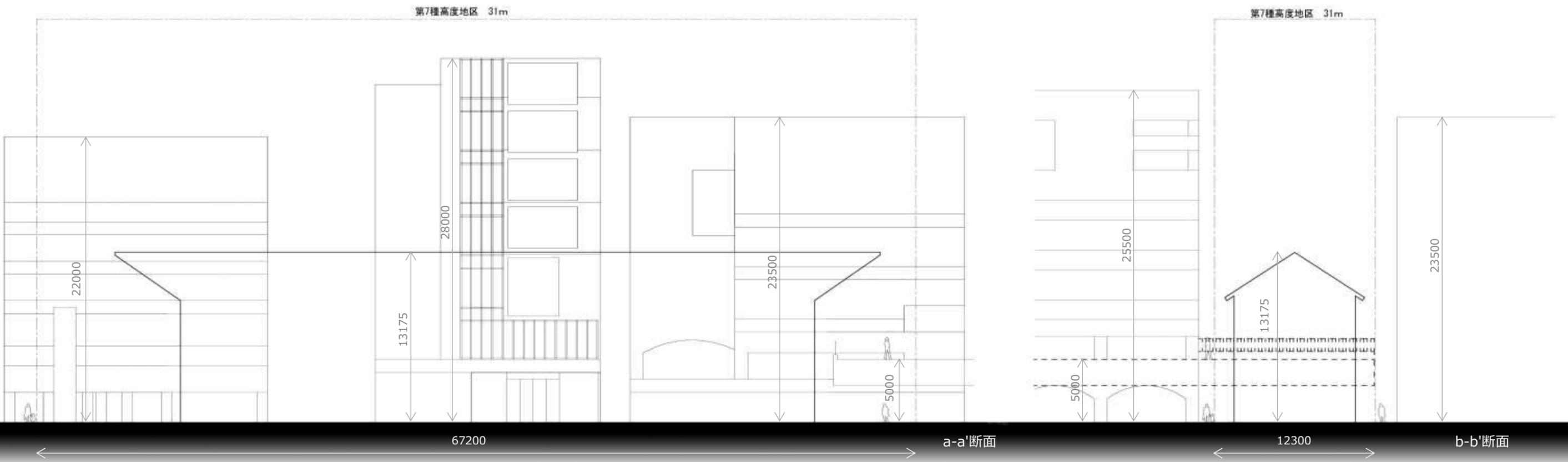
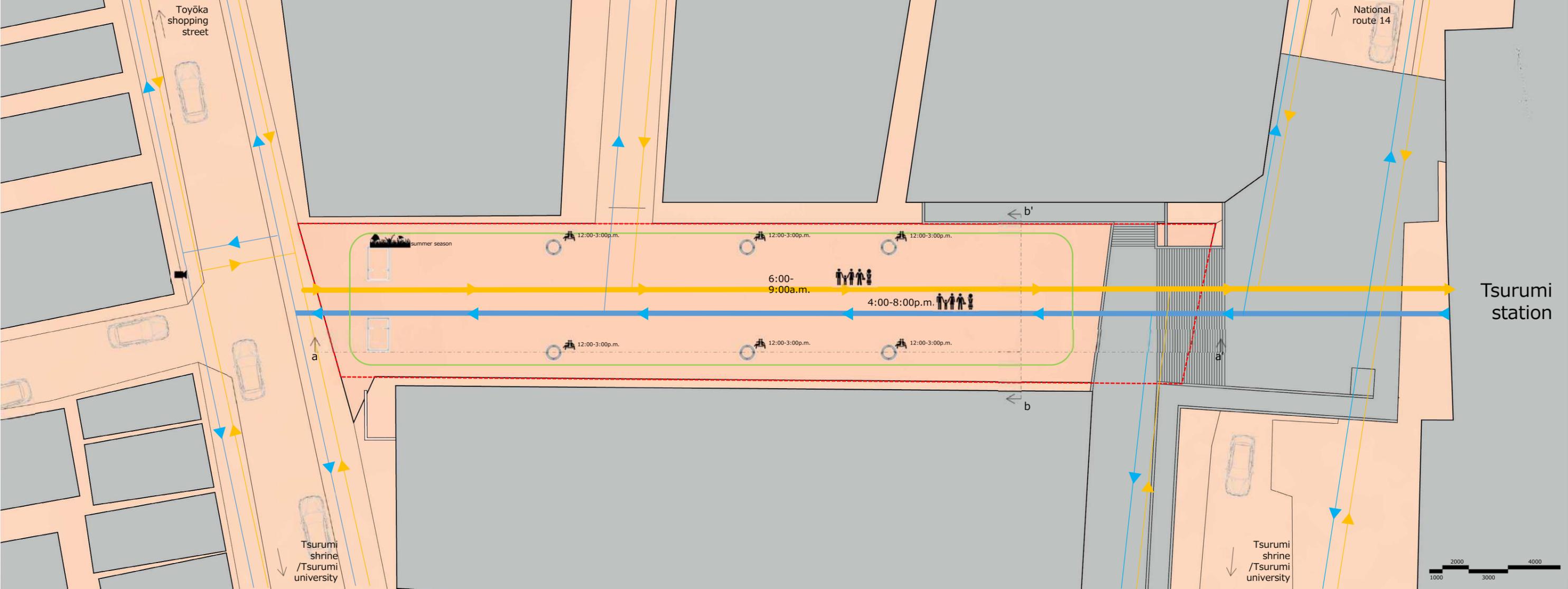
16. 屋根の設置

17-18. コンテナパース











敷地情報 (鶴見駅西口前広場)

敷地面積：883.43㎡

用途地域：商業地域

最大建蔽率：80%

最大容積率：600%

高度地区：第7種高度地区

防準地域：防火地域



イベント時の広場



広場駅側遊歩道上



遊歩道

狭小地で自由な商空間設計をするには

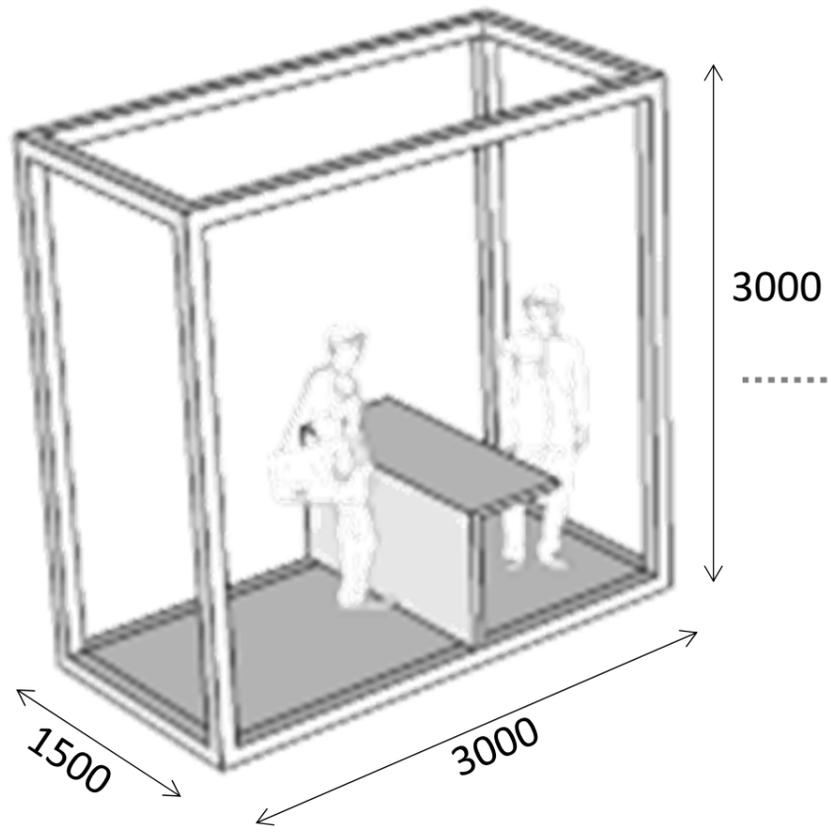
この先での設計に求められるのは、狭小地での設計だと思う。
近年、さまざまな箇所で狭小地での設計が目立っている。
アパホテルでの起業拡大方針のなかに、狭小地を活用して
収益を上げていることがある。

これらのように、狭小地での設計は重要になっていくと思われる。
よって、私は狭小地での商空間設計を検討してみることにした。

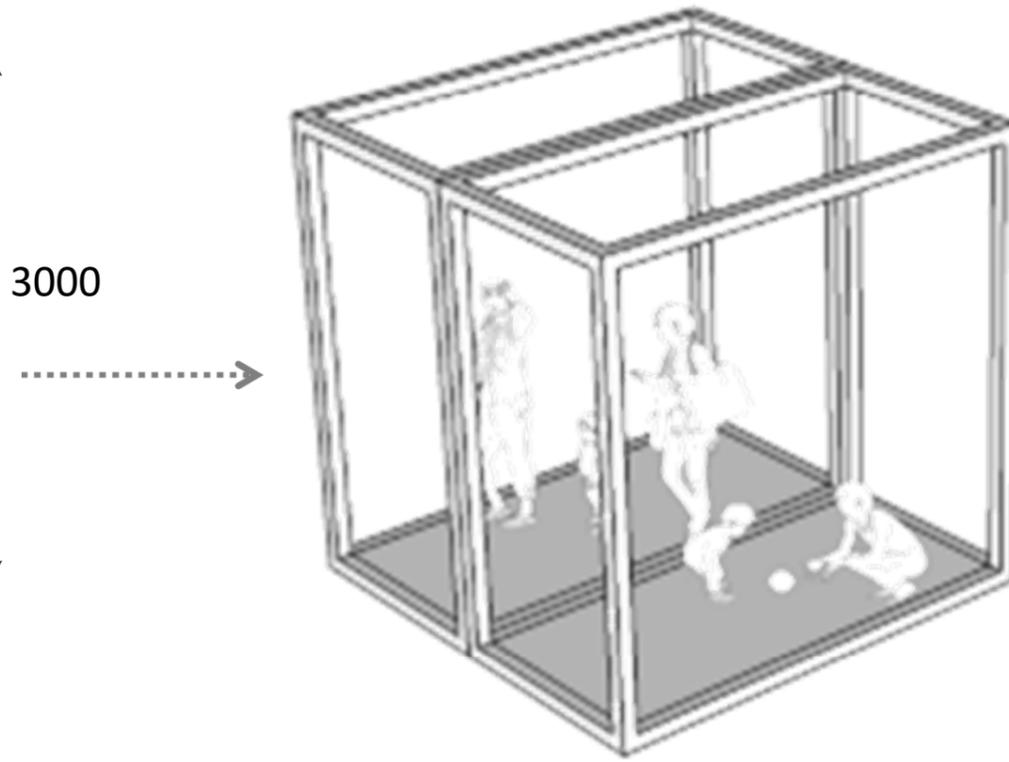
また、可変性を加えて
移動可能な、利用し続けることができる。
拡大や縮小を可能にする。
新しい商空間設計を検討することにした。

キューブモジュール

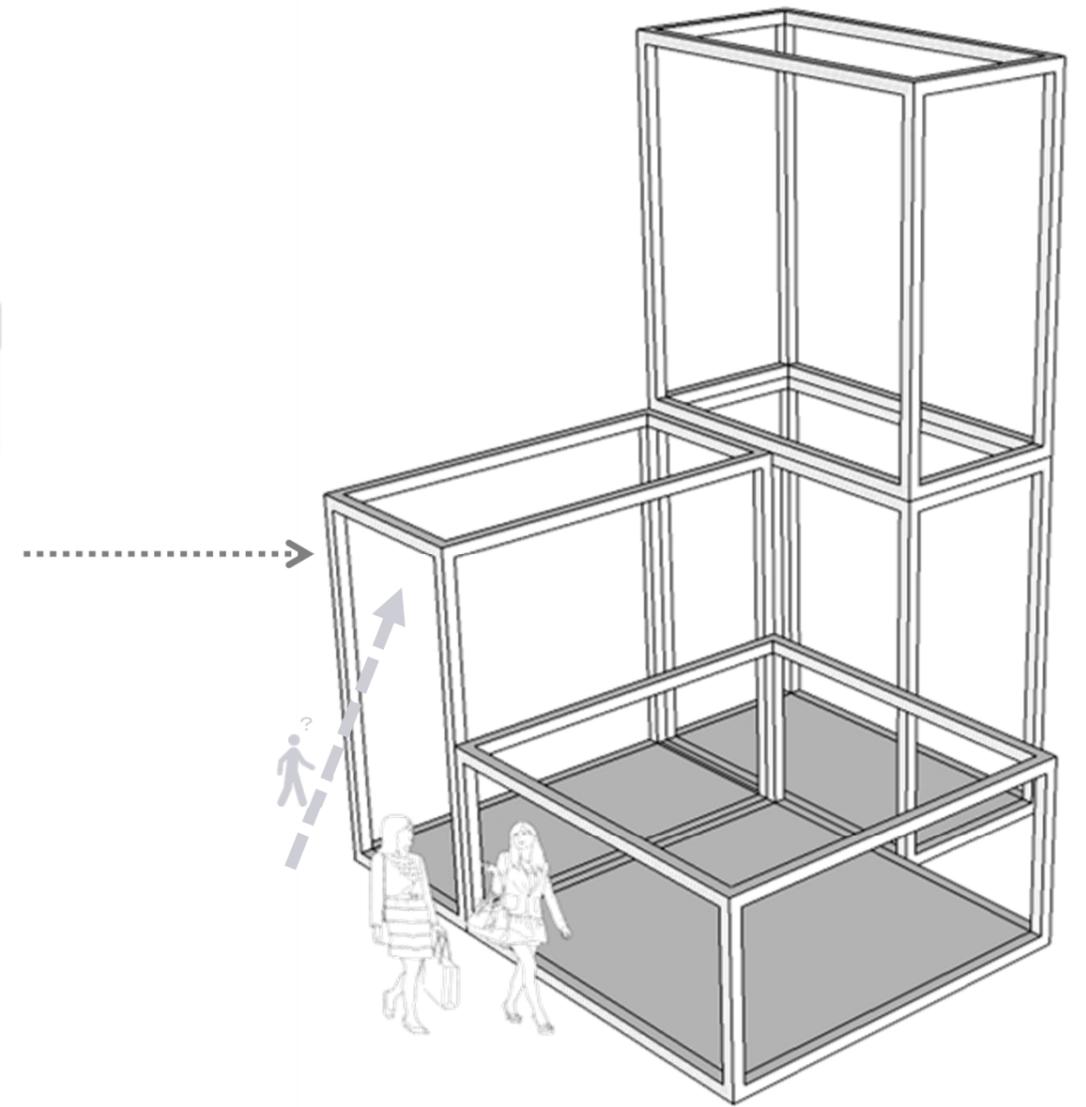
最小単位で成り立つ商空間を構成。
モジュールに置き換えた。
これをキューブモジュールとして扱う。
商空間の使い方によって拡大し組み合わせていく。



モジュール



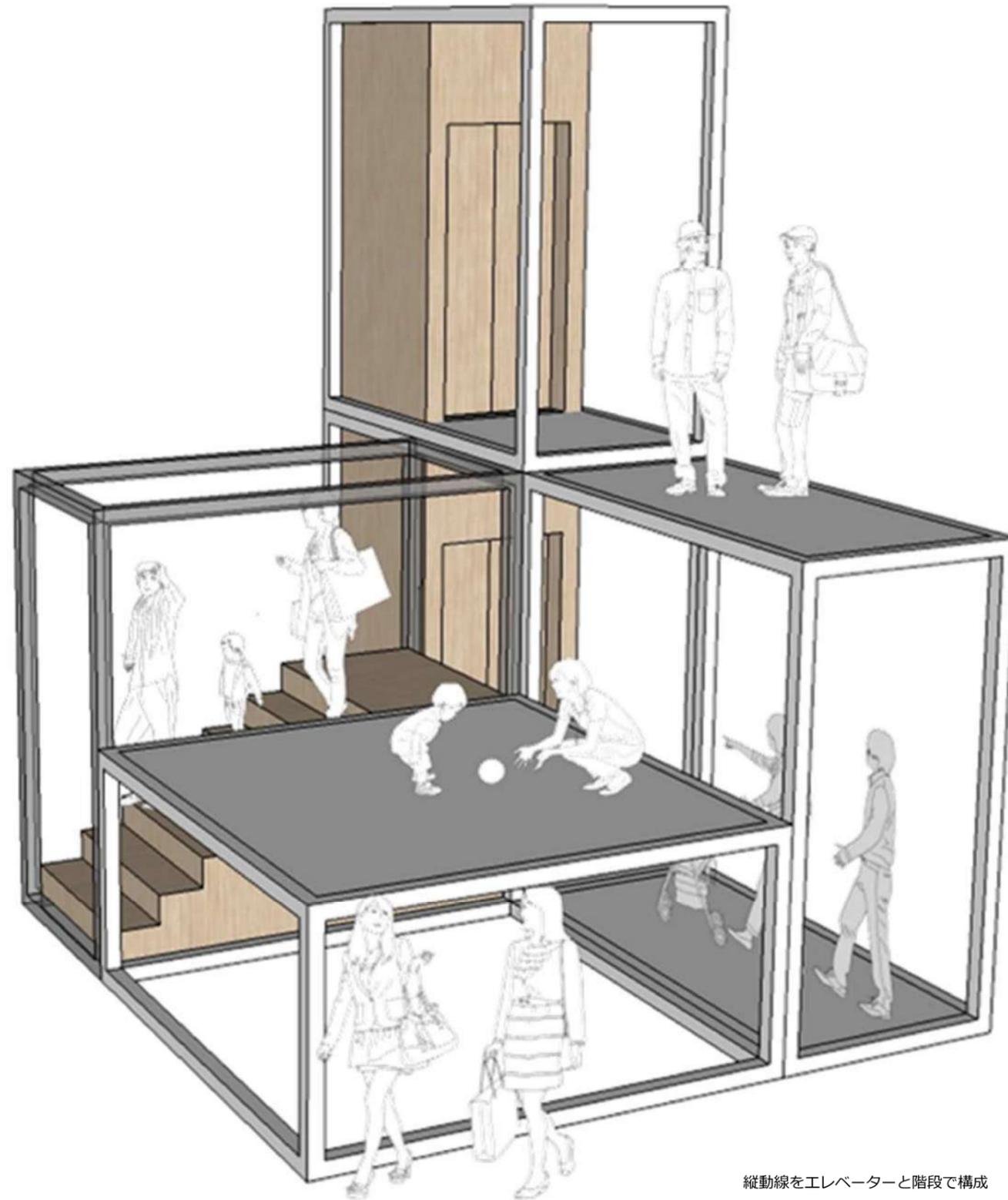
重ね合わせる



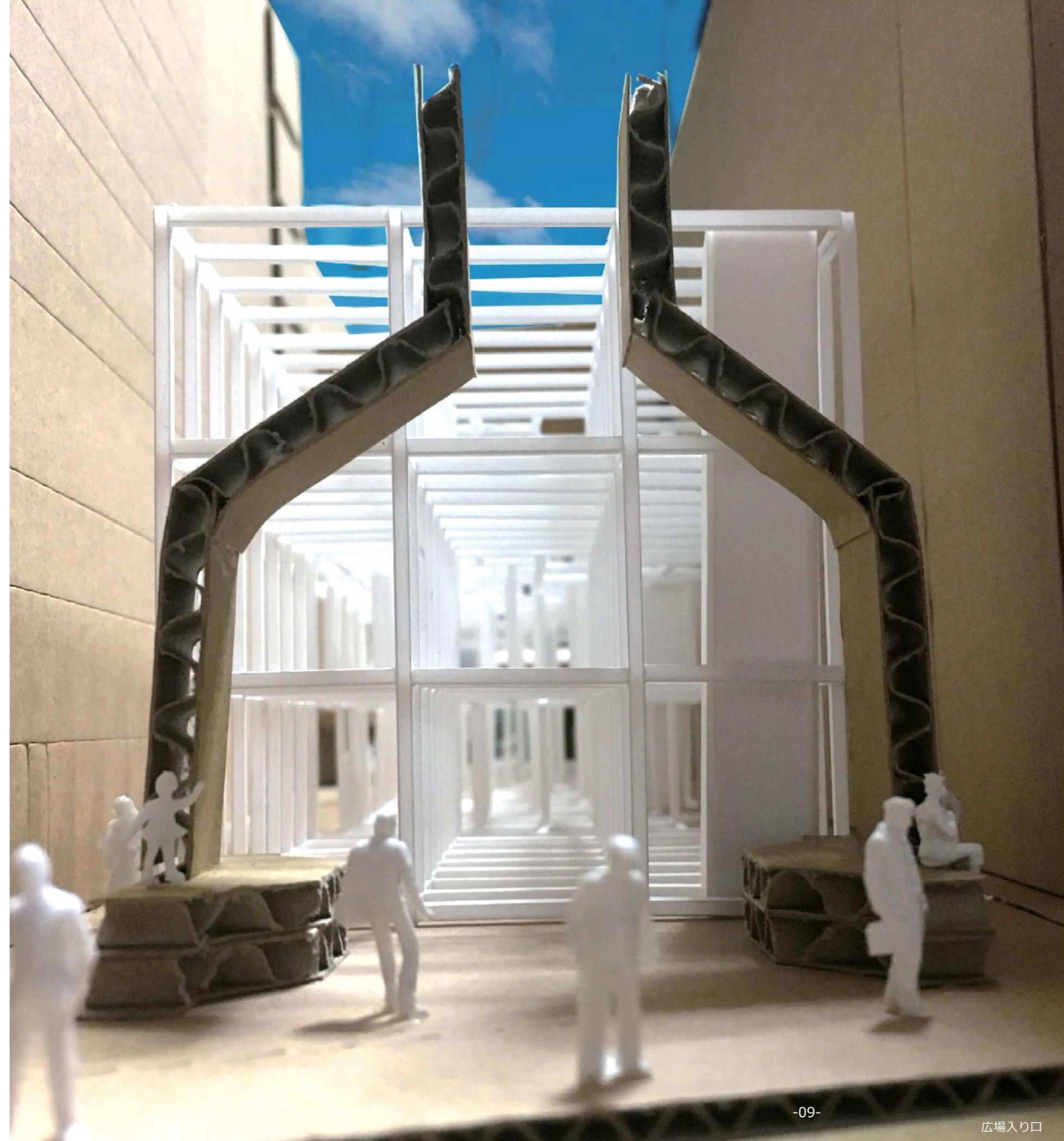
乱雑な組み合わせ

縦動線

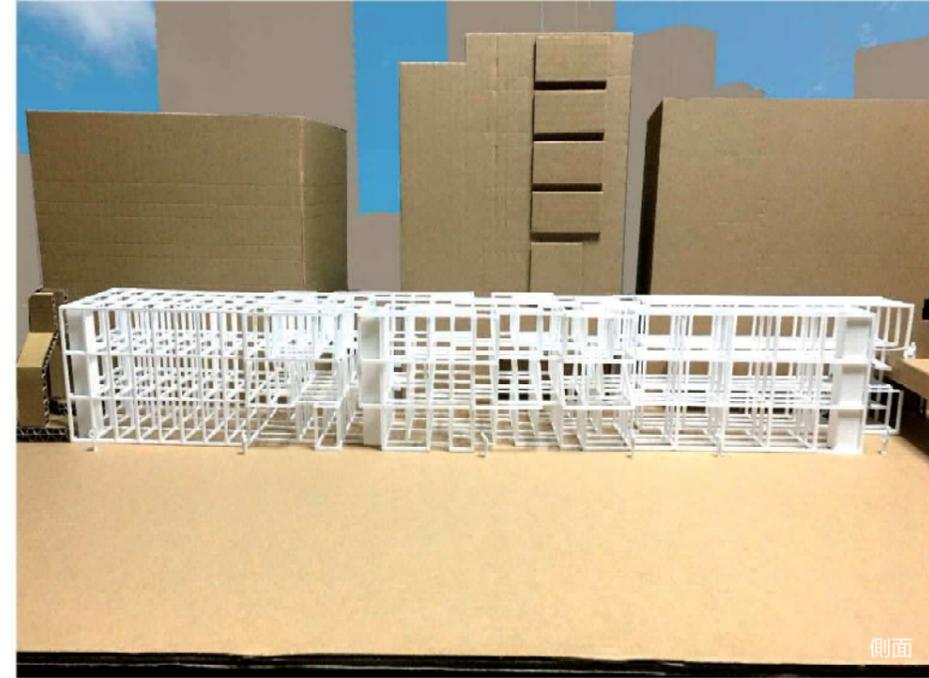
横動線は問題なく。
縦動線はキューブモジュール内に収めた。



縦動線をエレベーターと階段で構成



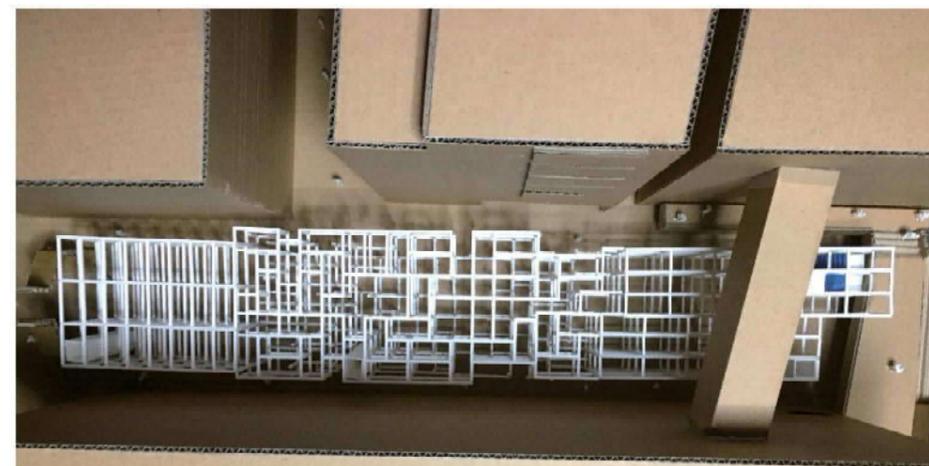
広場入り口



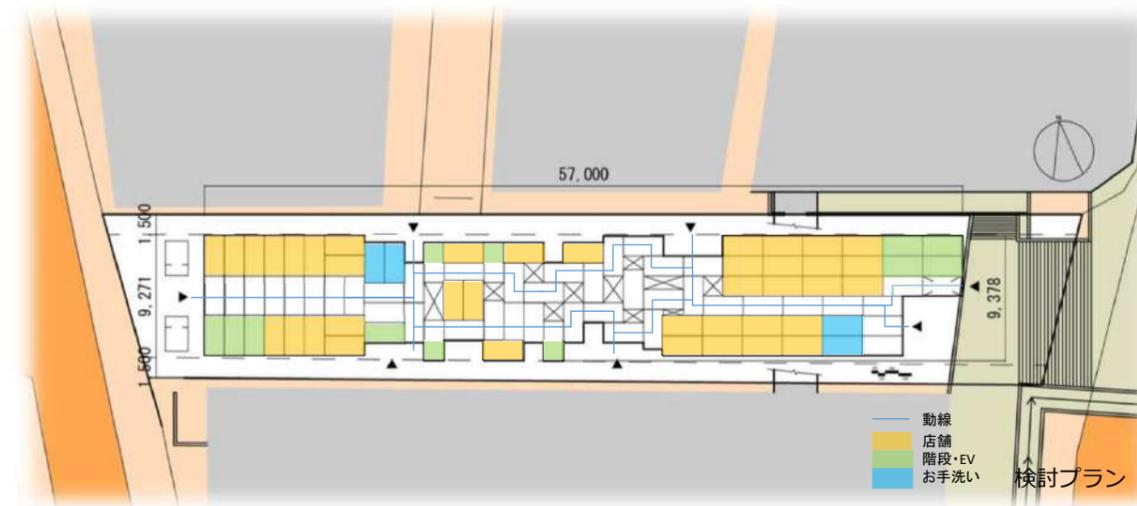
側面



広場入り口斜め上



広場真上



商業施設を構築

遊歩道を避けるようにキューブモジュールを敷き詰めた。そして、乱雑に敷き詰めることによって、空間的グラデーションをつけた。

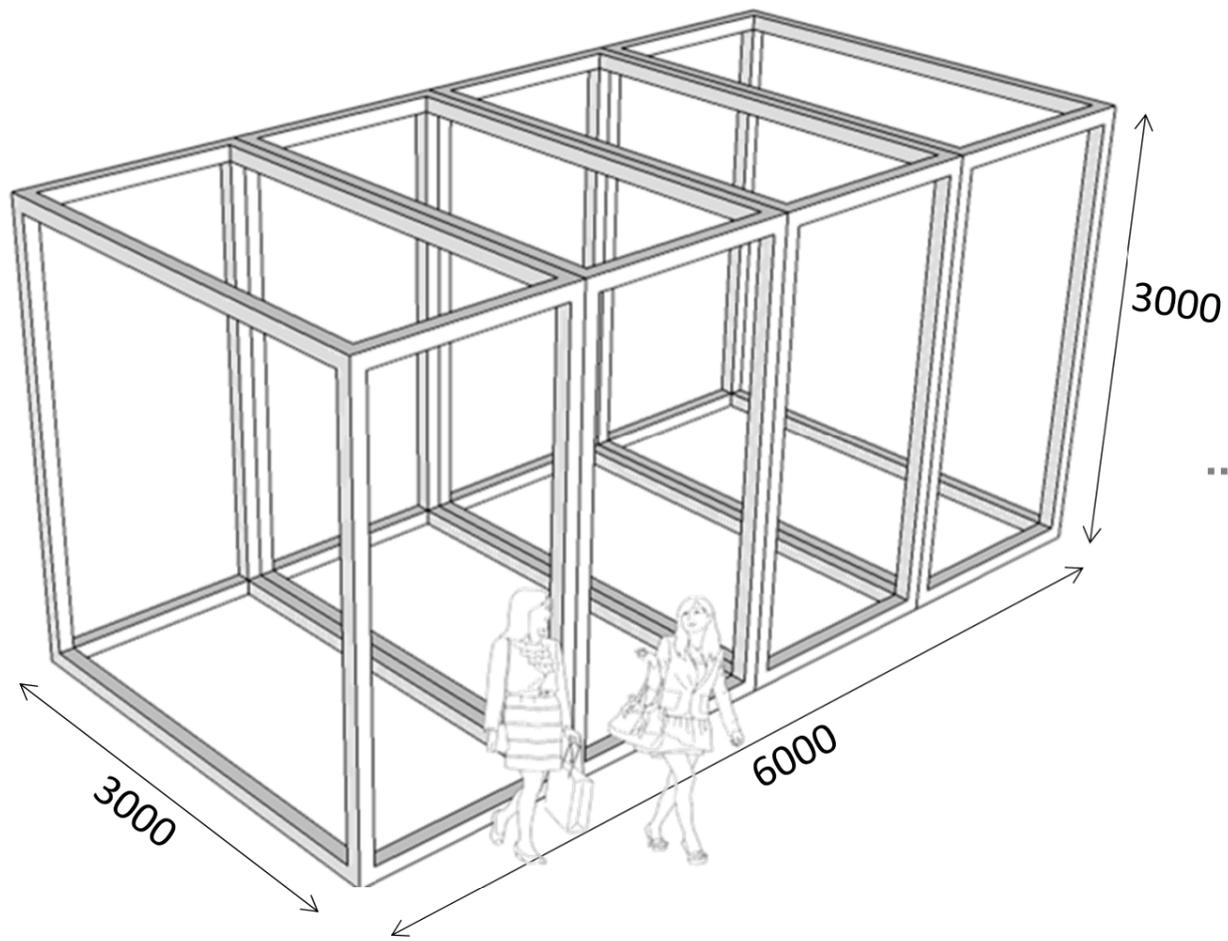
問題点

- ・ 最小寸法のキューブモジュールではストックルームや商空間としては不十分。
- ・ 構造上、乱雑部は想像通りの空間にはしあがらない。
- ・ 移動させるのに個数が多く面倒になるのではないか。

これらを解決するべく再検討が必要になる。

コンテナモジュールへの転換

前記での問題点を考慮した際、コンテナに着目した。
最小寸法をコンテナに置き換えて、不十分となっていた商空間を解決。
上下に積んで運ぶ事のあるコンテナは構造上では充分である。
元々、移動用に使用されているコンテナは効率性をあげる。
よって、コンテナモジュールで商空間を構成していく。



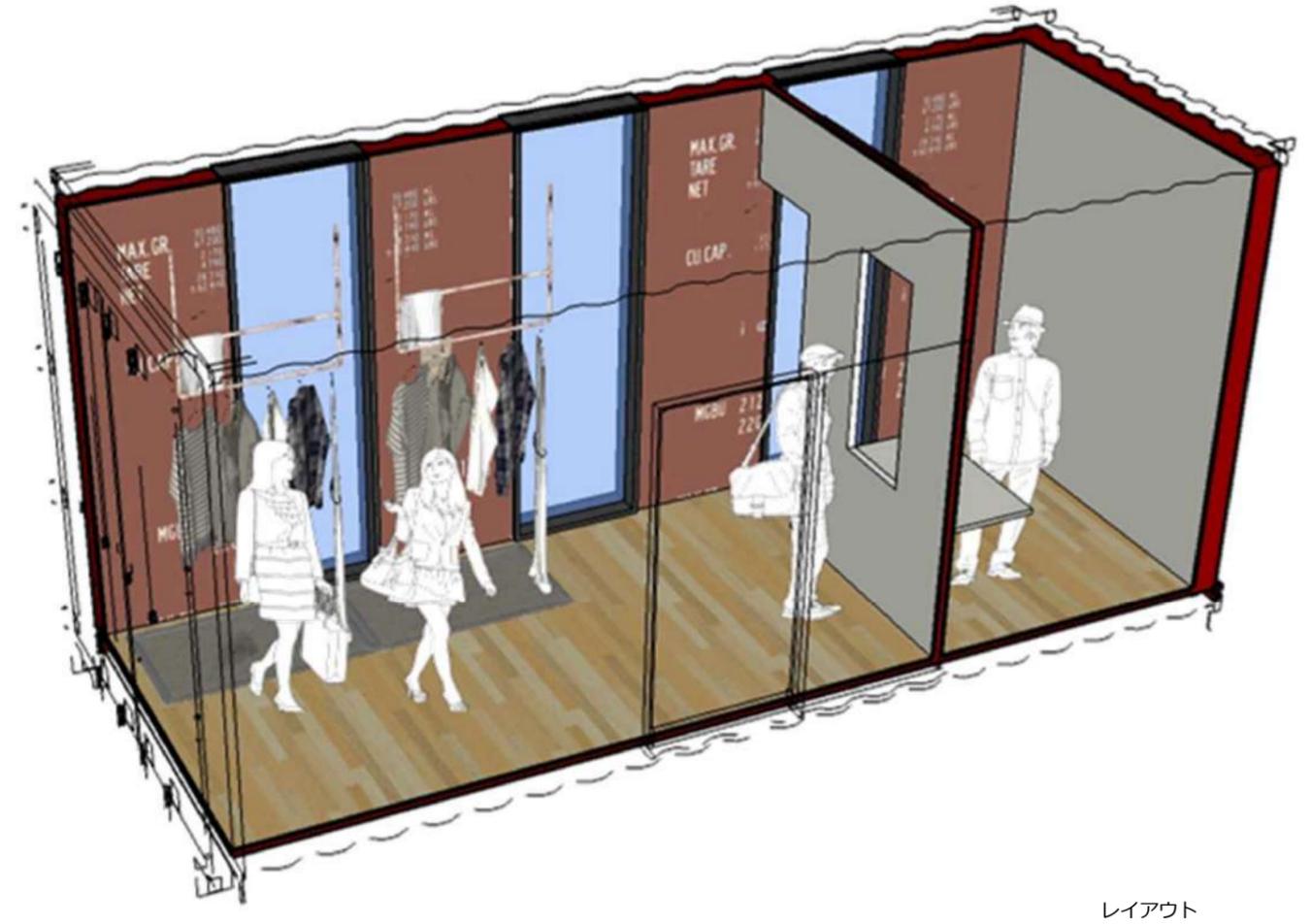
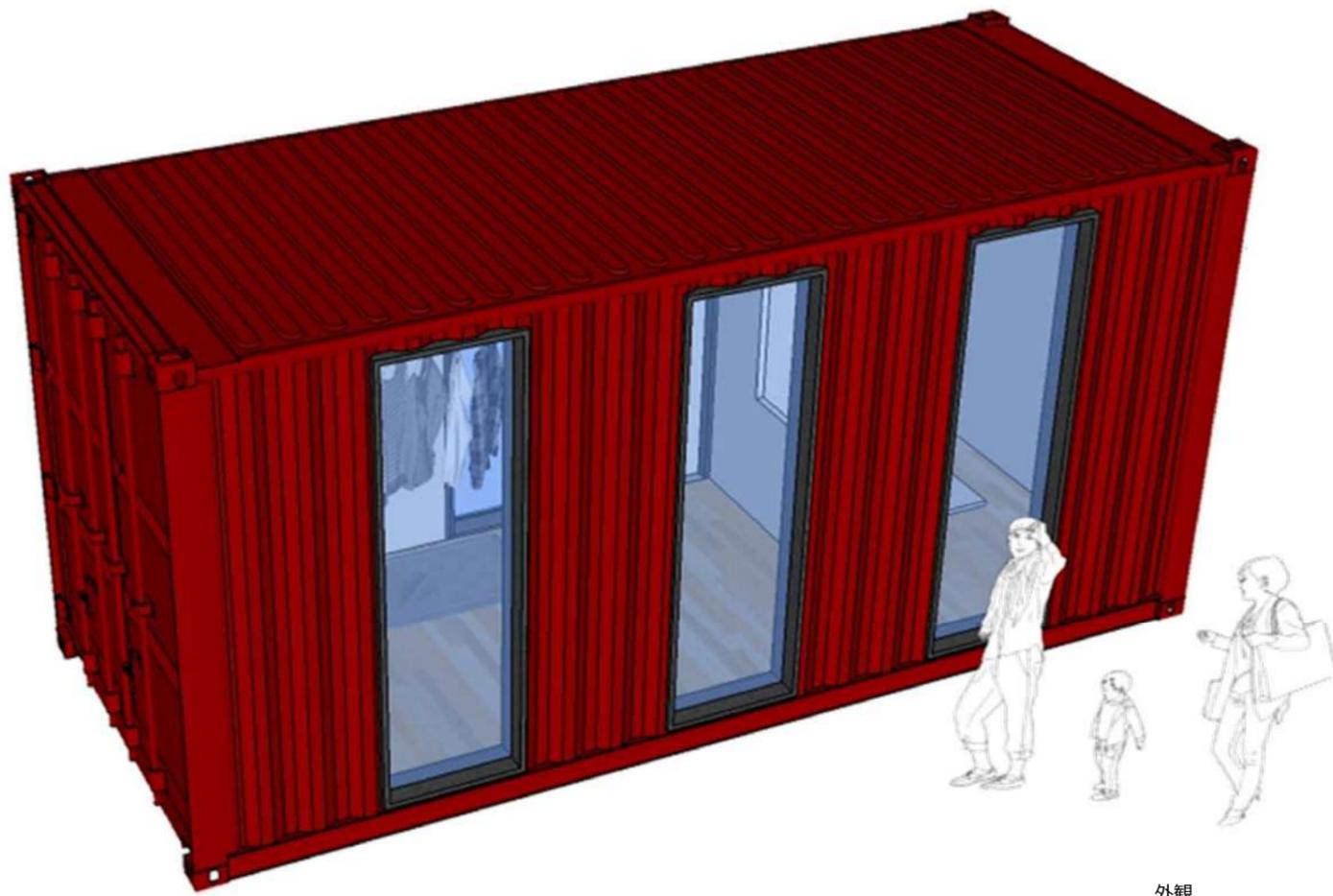
キューブモジュールを4つ繋げる



20ftコンテナ

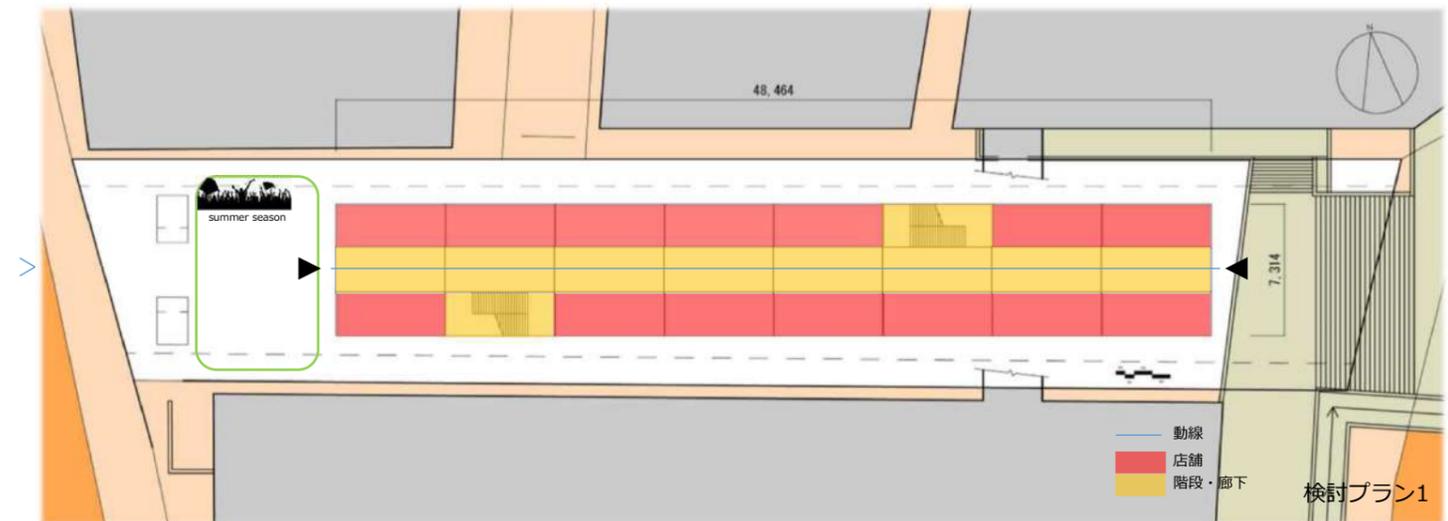
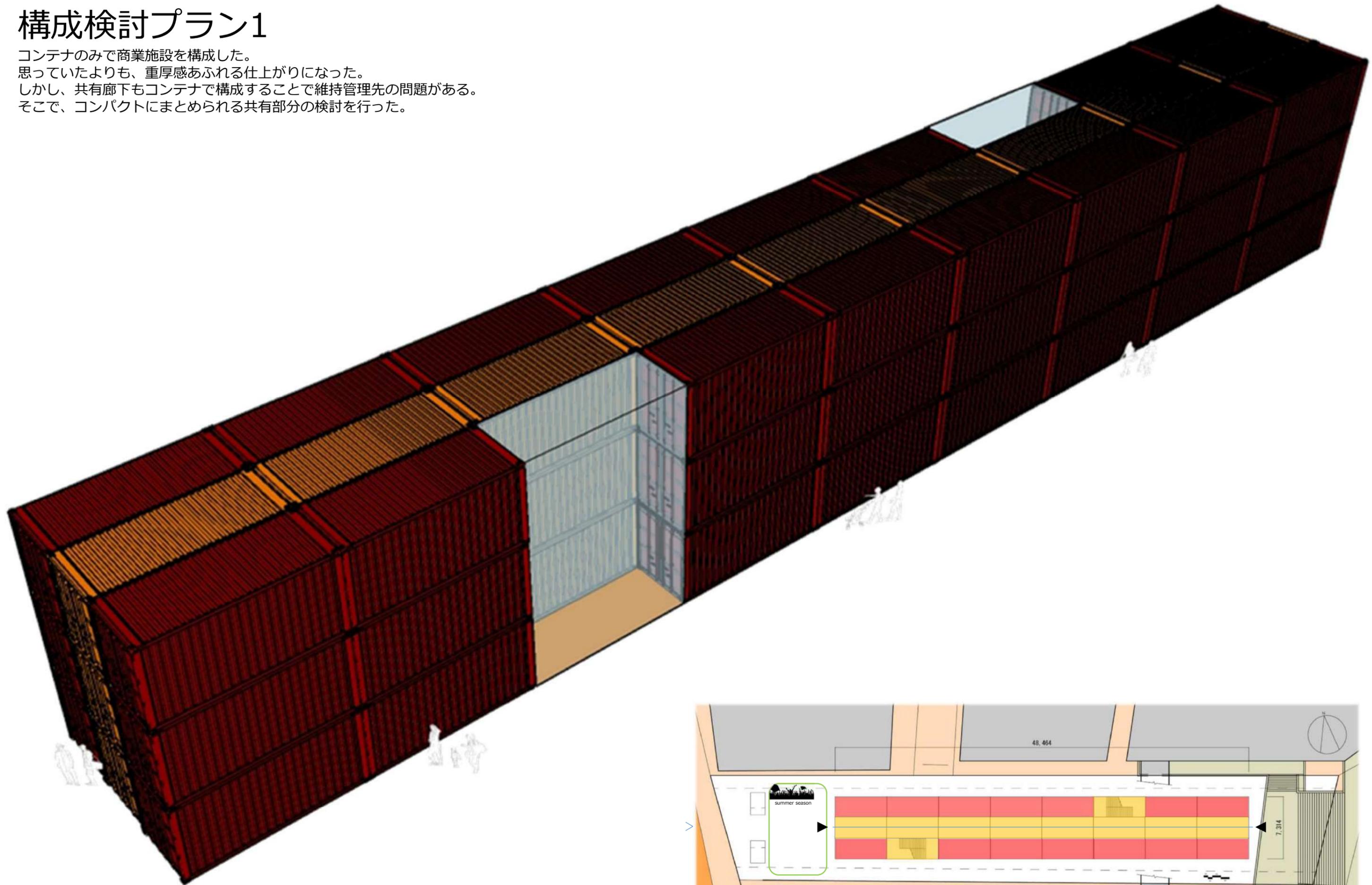
コンテナ商空間

コンテナサイズの中でも普及している20ftコンテナを基準にする。
そして、近年使用され用済みとなったコンテナが廃棄処分され再利用
での使い道が問題となっていることを耳にした。
ここで使用するコンテナを商空間として再利用する一例を紹介する。
空間内は、商スペースとバックスペースで構成した。
空間内のレイアウトは各々で自由な構成とする。



構成検討プラン1

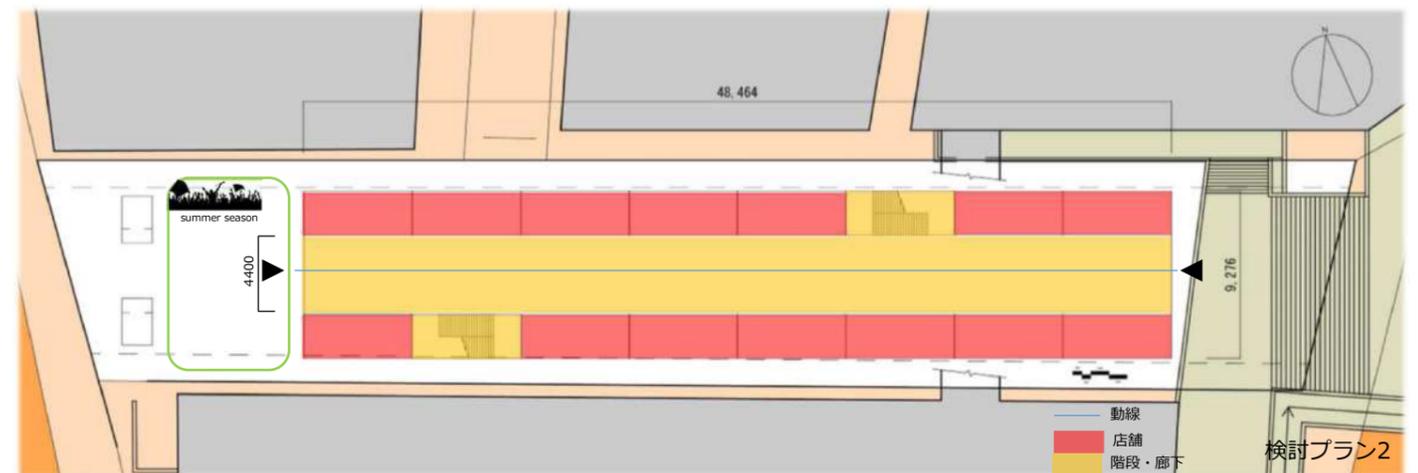
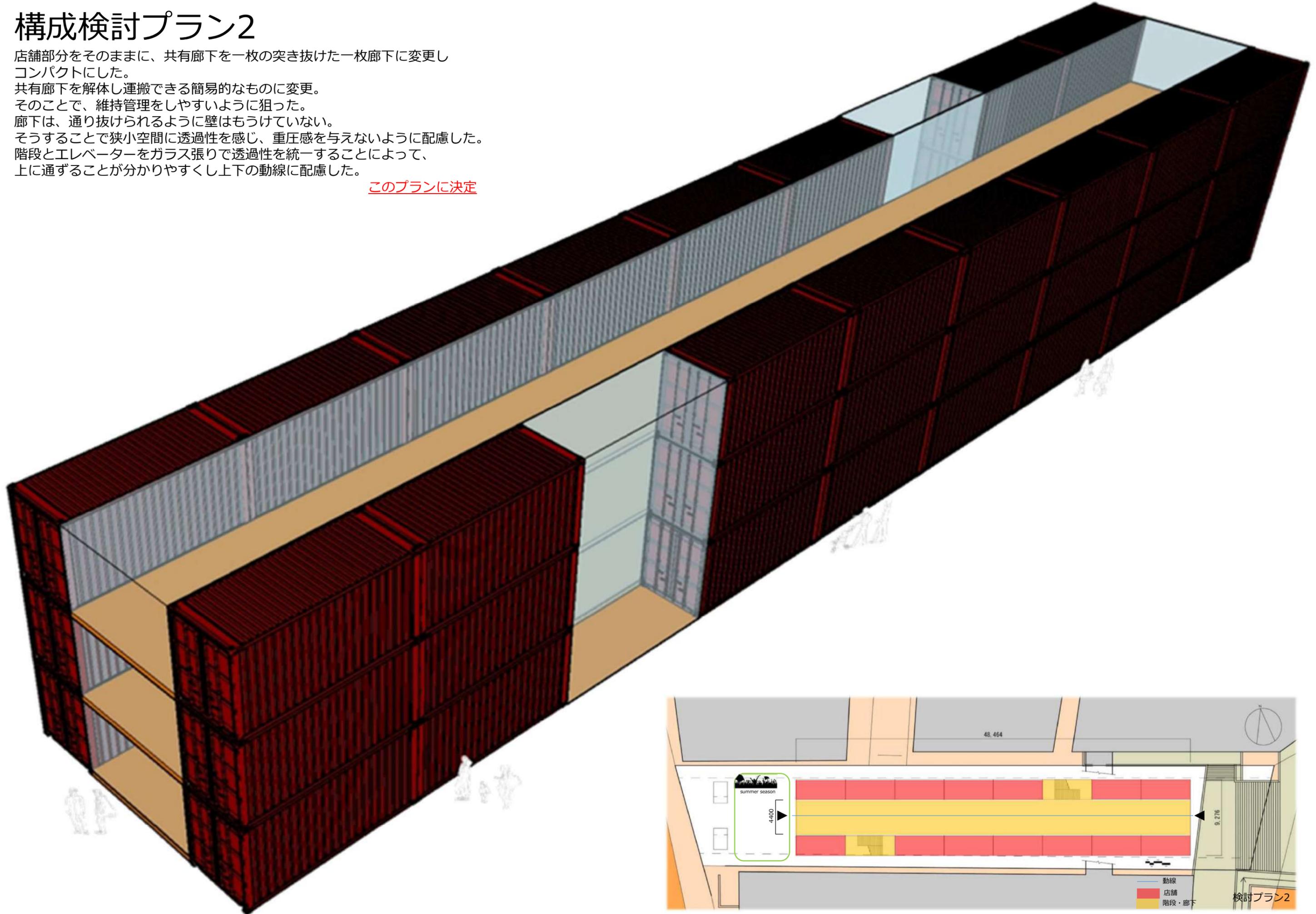
コンテナのみで商業施設を構成した。
思っていたよりも、重厚感あふれる仕上がりになった。
しかし、共有廊下もコンテナで構成することで維持管理先の問題がある。
そこで、コンパクトにまとめられる共有部分の検討を行った。



構成検討プラン2

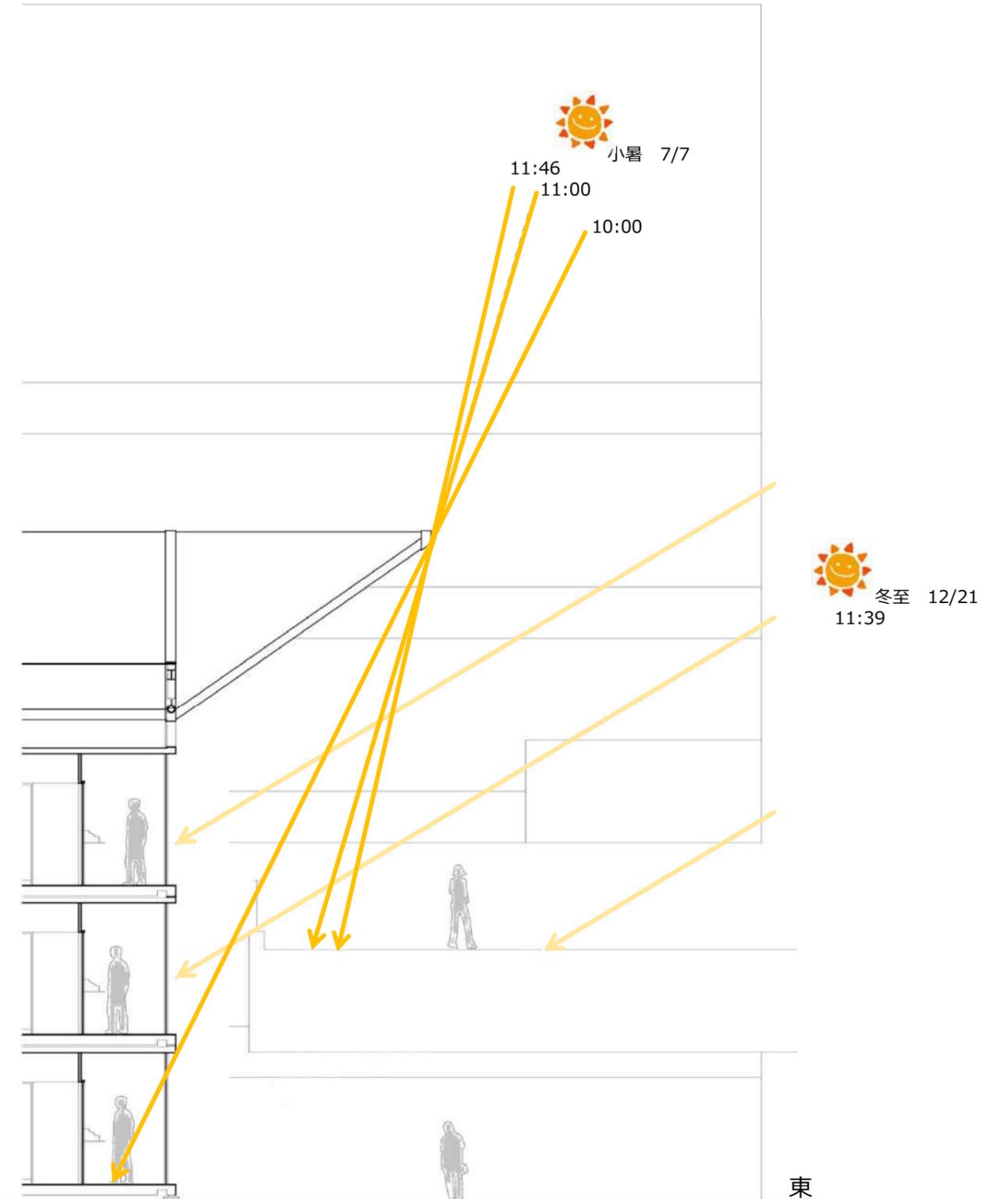
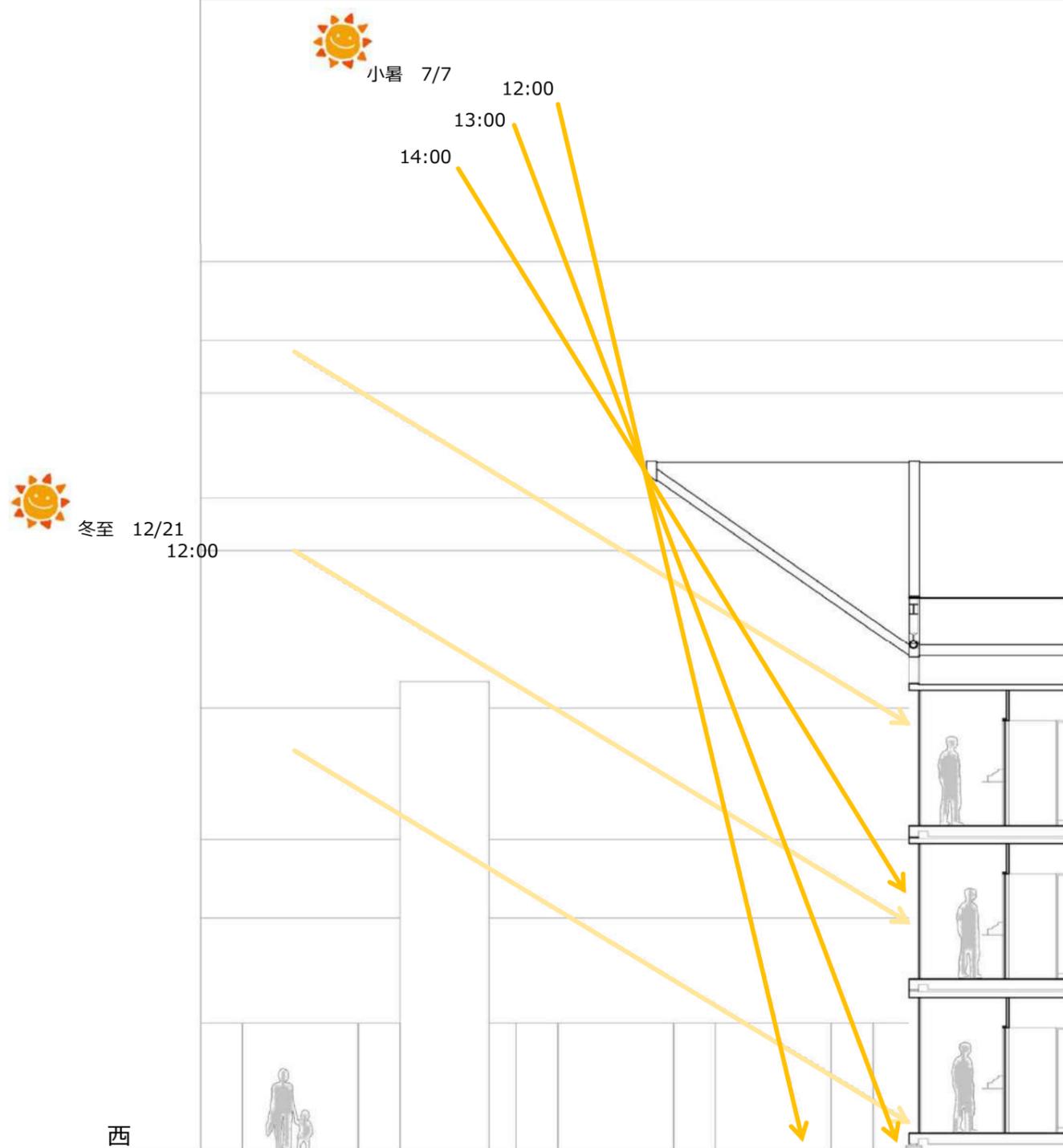
店舗部分をそのままに、共有廊下を一枚の突き抜けた一枚廊下に変更しコンパクトにした。
共有廊下を解体し運搬できる簡易的なものに変更。
そのことで、維持管理をしやすいように狙った。
廊下は、通り抜けられるように壁はもうけていない。
そうすることで狭小空間に透過性を感じ、重圧感を与えないように配慮した。
階段とエレベーターをガラス張りで透過性を統一することによって、上に通ずることが分かりやすくし上下の動線に配慮した。

このプランに決定



太陽光の取り込み

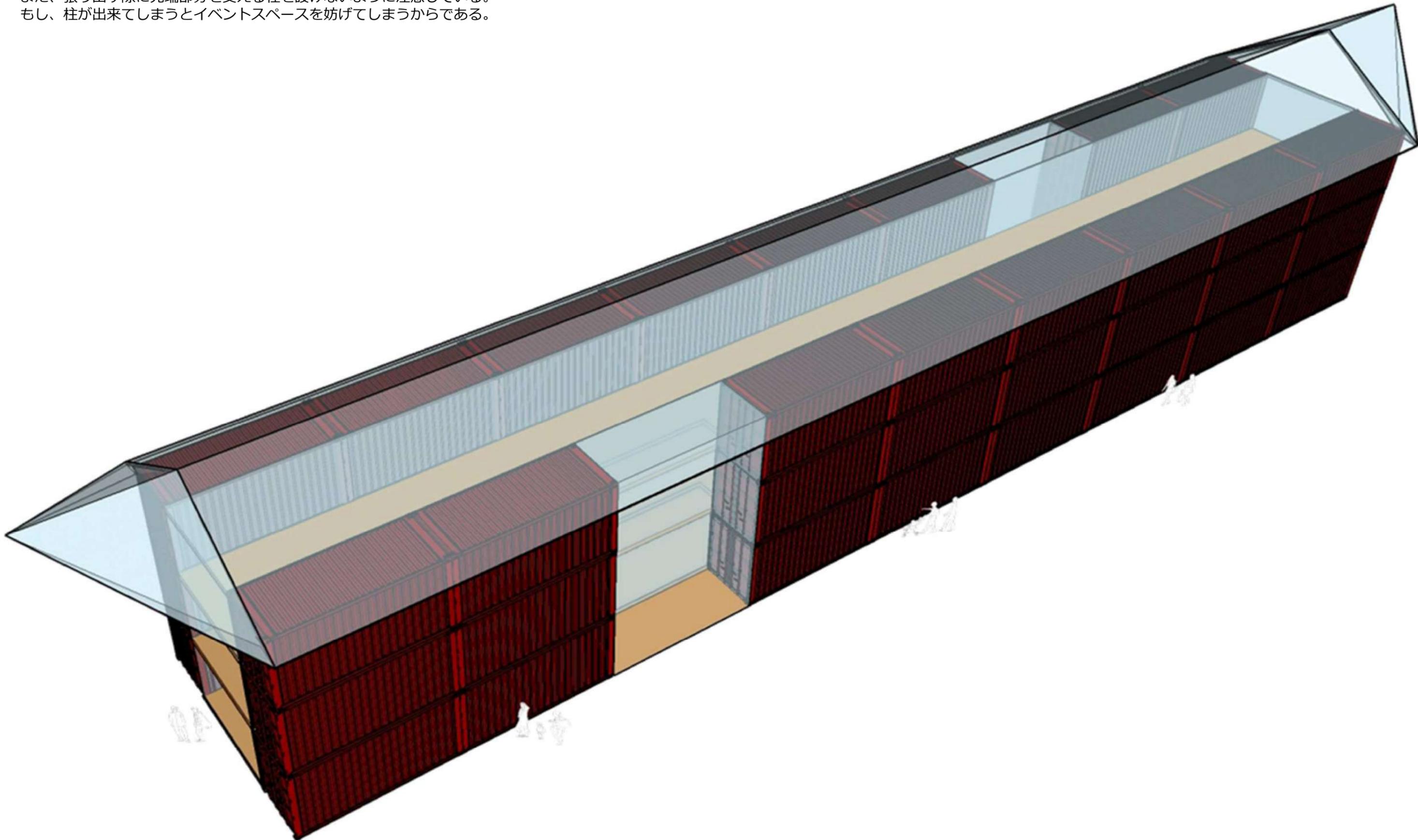
夏の暑い日差しは遮りつつ、冬のあたたかな日差しは取り込む。
小暑（7/7）は太陽の高さが一番高くなる時期である。
一方、冬至（12/21）が一番低くなる時期にあたる。
その二つの時期を基準に屋根形状を検討していった。
小暑に限っては、午前中の通勤時に眩しくならないように。
午後は、約14：00にかけて最高温度に達していくため。
それらを防ぐためにそれまでの日射を防ぐ形にしている。



屋根検討パース

屋根の設置

前記したように中心を尖らせた形状になった。
日差しを取り込むと同時に、広く開いた共有廊下を雨から防ぐ機能もしている。
また、張り出す際に先端部分を支える柱を設けないように注意している。
もし、柱が出来てしまうとイベントスペースを妨げてしまうからである。







コンテナショップ

コンテナで構築された商業施設は狭小な敷地の中でも、運営が可能である。コンテナの特徴ともいえる塗装色は、組み合わせでカラフルにできる。この特徴を生かして、各々の特徴を現すことでさらに面白い空間になると思う。中のレイアウトもより豊かなものになる。さらに、コンテナを現状のまま別の場所でも運営することが可能になる。